



# 酸化チタン



## 阪大、HV

溶射法により比電した  
HVOFでは粉末に入る  
熱量が少なく、粒子が秒速  
380μmの高速で基材表面  
に衝突して積層する。ごく  
表面の溶融したプラスチック  
がバインダーの役割を果  
たしている。

プラズマ溶射では粒子ス  
ピードは秒速100μm前  
後。溶射中にプラスチック  
表面の溶融がある。このた  
め溶融した基材表面に溶融

心度  
温度  
5800  
万度Cの  
プラズマ

### 核融合研、LHDで生成

【名古屋】核融合科学研  
究所は13日、今夏から進め  
ている大型ヘリカル装置  
(LHD)の第5サイクル実  
験で、中心イオン温度58  
00万度Cのプラズマ生成  
に成功したと発表した。9  
月末にヘリカル装置で初の

電子温度1億度Cを達成し  
ているが、これに続きイオ  
ン温度で目標としていた5  
500万度Cを超える58  
00万度Cを達成した。達  
成は7日で、11日に確認  
し、岐阜県土岐市で開催中  
の「プラズマ・核融合に関す

る国際会議」で報告し、  
今回、達成したその  
プラズマパラメータ  
心電子温度が5000  
C、平均電子密度が1  
たり7兆個。また48  
万度Cの高温状態を  
以上維持したという。  
条件は加熱パワーが  
子入射加熱6・5が  
オンサイクロン周波

# 産学協同で防汚実証

## 酸化チタン媒 光触媒

### 福岡大など試験方法確立狙う

【福岡】福岡大学環境科  
学技術研究所（中野勝之所  
長）工学部教授、092・  
871・6631）は産学

データ収集とともにメーカ  
ーによってまちまちなっ  
ている試験方法の確立を目  
指す。

協同で、酸化チタン光触媒  
の防汚機能を調べるための  
実証実験を開始した。外壁  
の防汚材として需要を拡大  
しつつある酸化チタンの働  
きを明らかにし、基礎的な

実験にはパウ建設（東京  
都中央区、田中俊一社  
長）、ティオテクノ（佐賀  
県大和町、森繁章社長）、  
サンデコール（福岡市東  
区、山口昇社長）、ティ

カ、松下電工、日本曹達、  
トウペなど8社が参加。

塗布方法や成分が異なる  
10種類の酸化チタン水溶液  
を実際に同研究所の建物に  
塗布し、それぞれの効果や  
機能性について確認してい  
く。

酸化チタン光触媒を外壁  
に塗布すると、親水性によ

って表面に有機物（油分）  
が付着しにくくなる。酸化  
チタンは光半導性を持って

おり、太陽光中の紫外線で  
活性化すると表面に水酸化  
シカルを生成し、この酸化  
作用によって油分を二酸化  
炭素と水に分解する。表面  
に付着した無機固形物は雨  
が降れば流されるため、表

面はきれいなまま保たれ  
る。コンクリート壁のほ  
か、紙、ガラス、プラスチ  
ックなどに塗布が可能。

中野所長らは2000年  
1月に九州地域の産学官約  
50者を集めて「チタニア応  
用研究会」を設立し、酸化  
チタン技術の確立と応用プ  
ロセスの開発などに取り組  
んできた。

今後5年間をめどに調査  
を続け、「（酸化チタン  
の）メカニズムを解明して  
何が汚れに作用するのか」  
（中野所長）を明らかにし  
たい考え。

## 物材研ナ

物質・材料研究機  
府の2次補正予算で  
建設や1ギガヘルツ高分  
気共鳴（NMR）分  
新設などが認められ  
しとなったことから  
分野でのナノテクノ  
研究を加速する。ナ  
制御による生体材料

序」である。権限や責任 仕事を割り振ると、とも  
ると双方に不協和音が生 分の、これからはマイ  
ソフトはかつフィン

# 企業内に大学研究室

福岡大環境科学技術研 サンデコールと連携

## 酸化チタンの実証施設



【福岡】福岡大学環境科学技術研究所(中野野之新保11卒部教授)は、サンデコール(福岡市東区松島092-8228、山口洋社長、092-6244-0111)内にサテライト・ラボを設置した。酸化チタン(チタニア)の実証研究施設で、福岡大の卒業生を社員として迎える4月に本格稼働する。企業内に大学の研究室が同居する新しい形の産学連携といえる。

施設は約1200平方メートル、2階の研究室にはチタニアの製造設備を備え、2階には40人収容の講義室を設ける予定。サンデコールの「環境科学研究所」も併設されている。当所は「チタニア」を主として、パワーカーや水溶液、ピ

施設は約1200平方メートル、2階の研究室にはチタニアの製造設備を備え、2階には40人収容の講義室を設ける予定。サンデコールの「環境科学研究所」も併設されている。当所は「チタニア」を主として、パワーカーや水溶液、ピ

チタニアは親水性を有しているため、塗布した部分には有機物が付着しにくく、酸化作用によって油分を二酸化炭素と水に分解する効果を持つ。塗布に無機固形物が付着しても雨や水で流され、コンクリート壁や紙、ガラス、プラスチックなどがきれいになる。既に複数の産学連携工企社などへの納入が実施されている。

福岡大の中野教授は九州地域の産学官連携による「チタニア応用研究会」を設立し、チタニア技術の開発に取り組んでいる。

今後は大産生産が出来る機種の開発や改良、卒業生の派遣など、協力を深めていく。

列島ネットワーク

